

～ 雑木林の春に 抱かれて 包まれて  
花ざかりの樹木を巡る一日～



相生山の四季を歩く会  
#135 2021.4.11



カマツカ

眼と鼻と耳と  
口(舌)と指も使って  
全身で  
春を感じよう  
春に遊ぼう 元気もらおう

タカノツメ (鷹の爪)  
ヤマコウバシ (山香ばし)  
アケビ (木通) ハギ (萩)  
クスノキ (樟) マツ (松)  
ハリエンジュ (針槐)



アズキナシ

バラ科 のなかまたち 共通:花色=白、散花序、短枝、ナシ状果

No	属	標準和名	漢字表記	樹形	花	葉	用途	備考
1	カマツカ	カマツカ	鎌柄	落葉亜高木	雄しべ20, 花柱3	細鋸歯、朱(橙)色の新芽・紅葉	柄:鎌,洋傘 別名:牛殺し	谷筋に多い
2	ナカマド	アズキナシ	小豆梨	落葉高木	雄しべ20, 花柱2	重鋸歯、葉脈目立つ・黄葉	建築・器具・果実酒	別名:秤の目
3	リョウ	ズミ	酢実	落葉亜高木	雄しべ多数, 花柱3~5	長枝の葉は3~5切れ込み	リョウ台木・染料・果実酒	相生山の華 別名:小梨
4	ザイフリボク	ザイフリボク	采振木	落葉亜高木	雄しべ20, 花柱5	冬芽が美しい、若葉裏白軟毛	庭木・公園木	別名:幣桜 June berry

レウクワ科/ガマズミ属  
落葉低木,対生  
葉身、葉柄に毛あり  
合弁花、5裂平開、雄しべ5  
托葉あり、葉柄短い  
ミヤマガマズミ葉身は無毛光沢  
ガマズミは葉が丸く、花期が遅い



コバノガマズミ  
(小葉の英薔)



ウスノキ

ツツジ科 のなかまたち

No	属	標準和名	漢字表記	樹形	花	果実	特徴
1	ツツジ	コバノミツバツツジ	小葉の三葉躑躅	落葉低木	葉の展開前	蒴果	雄しべが10本
2		モチツツジ	躑躅	半常緑低木	葉の展開と同時に		新芽・萼・花柄に腺毛
3		ヤマツツジ	山躑躅	半常緑低木	葉の展開と同時に、色多様		葉両面に褐色伏毛
4	スノキ	ウスノキ	臼の木	落葉低木	花・果実に稜	液果	別名:カクミ(角実)スノキ
5		ナツハゼ	夏櫨	落葉低木	5月総状花序		葉表粗い毛
6		シャシャンボ	小小坊	常緑亜高木	6月総状花序		葉裏主脈に突起
7	ネジキ	ネジキ	振木	落葉亜高木	5月総状花序	蒴果	有毒・花芳香

次回は 5月9日(日)  
～ お帰り夏鳥 森の夏～  
ツバメ・キビタキ・センダイムシクイ



5月の2回目は  
ヒメボタル観察会  
中下旬の週末  
20時～

「フリンセスのお茶」  
自然生えの山の茶つみと  
なんちゃって製茶体験など  
5月1～5日ごろ  
岐阜県七宗町  
ラフリーアースの山林  
詳細,問い合わせ,相談

連絡先 (古川)

tell/fax: 052-821-6463

ケイタイ: 080-5124-6463

e-mail: viva\_forest@yahoo.co.jp

ホームページ: ラフリーアース → 検索

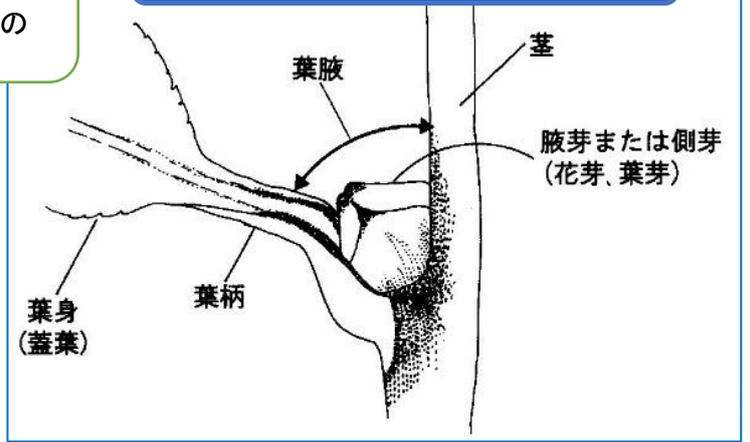
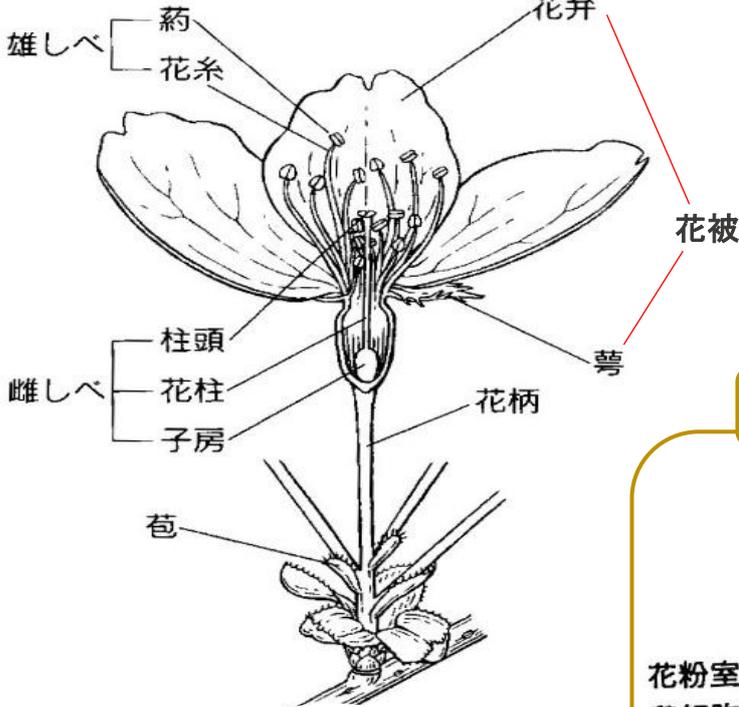
ブログ: 相生山からのメッセージ

# 花を知ろう

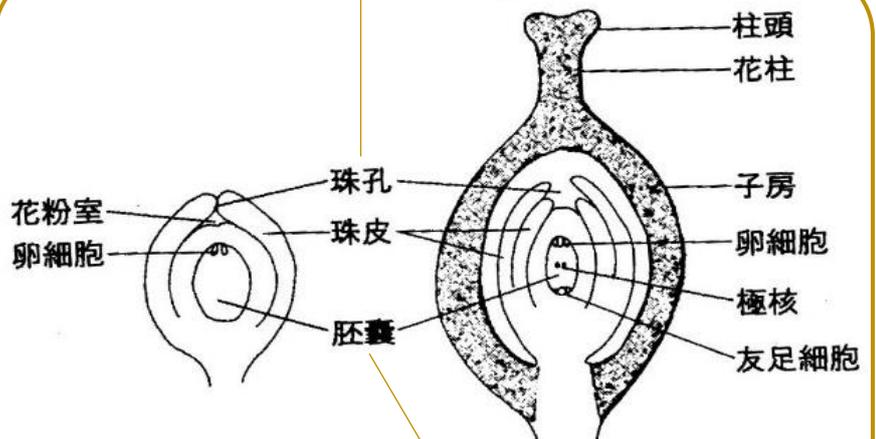
花を構成するそれぞれの器官は葉から変化したもの

花や枝は葉腋(ようえき)から伸びる

## 花のつくり 《両性花》



## 裸子植物 と 被子植物 のちがい



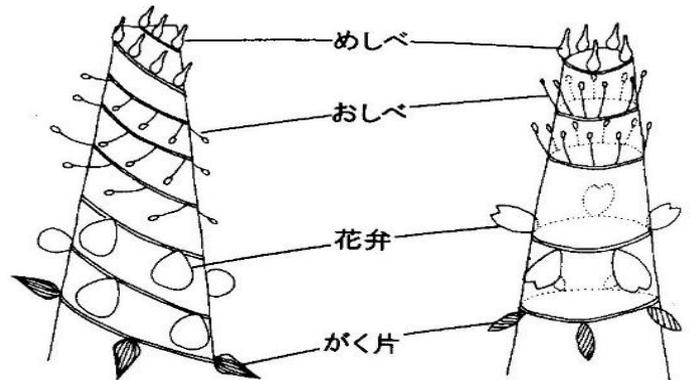
	裸子植物	被子植物
子房	ない	ある
胚珠	むき出し	子房内
果実(果皮)	形成しない	形成する

## 植物の雌雄の形態のいろいろ

雌雄同株	両性花	1つの花にめしべとおしべの両方をもつ植物。
	単性花	1つの個体に雌花と雄花の両方をもつ植物。
雌雄異株 (別株)		雌と雄が別々の個体として独立している植物。



## 両性花の器官の並び方



らせん配列  
裸子植物 (マツ・ソテツ)  
モクレン科など

輪状配列  
被子植物 全般



参考資料: 木の見かた、楽しみかた(八田洋章/朝日選書)  
樹に咲く花(山溪ハンディ図鑑) 他

## 32

## 雌花が歩む厳しい道のり——雌花からドングリへ

春、多くの樹木が少しでも多くの子供を残そうと精一杯の花を咲かせます。しかし咲いた花が全部結実するとは限りません。さまざまな原因でその数は大幅に減ってしまうのが普通です。コナラを例に、結実までに花の中でいつ何が起きているのかを見ながら、その数が減っていく過程を追ってみましょう。

コナラは、関東地方あたりではゴールデンウィークの前半ごろ、一本の木に雄花と雌花両方を咲かせます。このうちドングリに育つ雌花はとても小さく、直径一・五<sub>ミ</sub>程度の本体に小さな柱頭三枚をその上に突き出させている、とっても目立たない花です(写真)。雌花の中には六個の胚珠(タネのもと)があり、この中に一個の卵細胞ができます。それぞれの胚珠がドングリにまで育つチャンスを持っています。

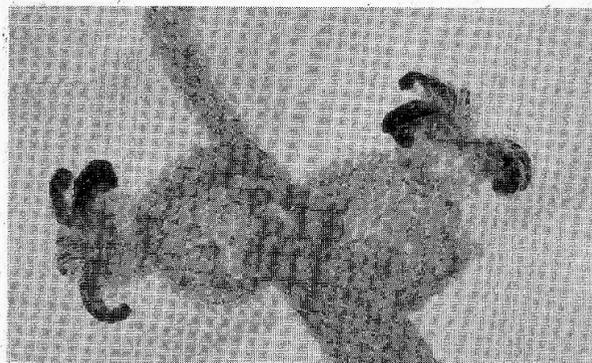
雄花から放出された花粉は風に運ばれ、雌花の柱頭にたどり着きます。しかし受粉の有無にかかわらず、せっかく咲いた花の一部は開花後ほとんど発育せずに死んでしまいます。その数は母樹によって異なり、多い母樹では七〇%以上に及びます。なぜ母樹が多くの雌花を捨ててしまうのかはよくわかっていません。

この段階を生き延びた雌花は、母樹から栄養をもらってゆっくりと発育し始めます。その間、柱頭についてた花粉は花粉管を少しずつ伸ばし、一か月ほどかかって胚珠内の卵に到達し、花粉管内にある雄性核が卵と合一します(受精)。しかし一粒の花粉も受粉できなかった雌花はここでおしまい、発育をストップします。また、受粉したのが母樹自身の花粉だけだった雌花は受精できず、やはりここで死んでしまいます。これは、「自家不和合性」という近親交配を防ぐ仕組みが働き、母樹自身の花粉はほとんど花粉管を伸ばすことができなためです。この段階で死んでしまう雌花の割合は、すぐそばに花粉をくれる木がいるかいないかによって大きく変わります。その後、受精卵を持つ胚珠だけが発育を続け、そのうちの一つだけが最終的に勝ち残り、ドングリの原型ができあがります。時は七月上旬、もうすぐ本格的な夏が到来するところです。

運よくここまで育ってきた雌花は、あとはドングリに育つべくどんどん成長するのみです。コナラの場合は、ここまで発育した雌花(若いドングリ)を母樹自らが栄養補給を絶って死なせてしまうことはほとんどありません。しかし、若いドングリは昆虫たちから見れば恰好のごちそうです。ガやゾウムシの仲間が多くの若いドングリに産卵し、ふ化した幼虫が栄養豊富なドングリの中身を食べてしまいます。

こうして、多くの場合、咲いた雌花の九〇%以上はいずれかの段階で息絶え、母樹から捨てられてしまいます。数々の試練に耐えた運のよかった雌花だけが、一〇月上旬ころようやく成熟したドングリになれるのです。

(金指達郎)

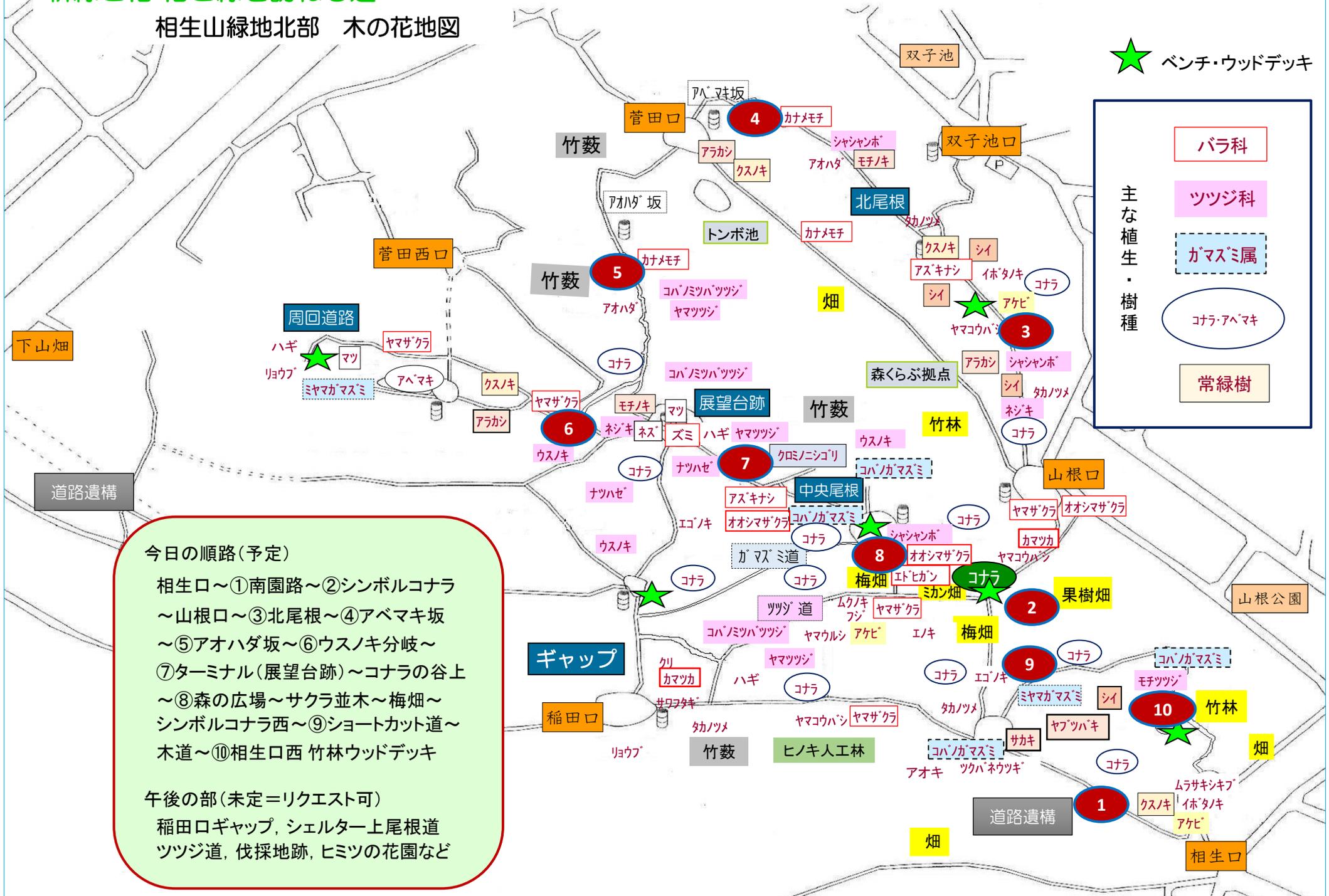


受粉後10日ほど経過したコナラの雌花。直径1.4mm程度、3枚の柱頭は乾燥して黒ずんでいる。

# 新緑と花 花と緑を訪ねる道

## 相生山緑地北部 木の花地図

★ ベンチ・ウッドデッキ



**今日の順路(予定)**  
 相生口～①南園路～②シンボルコナラ  
 ～山根口～③北尾根～④アベマキ坂  
 ～⑤アオハダ坂～⑥ウスノキ分岐～  
 ⑦ターミナル(展望台跡)～コナラの谷上  
 ～⑧森の広場～サクラ並木～梅畑～  
 シンボルコナラ西～⑨ショートカット道～  
 木道～⑩相生口西 竹林ウッドデッキ

午後の部(未定=リクエスト可)  
 稲田口ギャップ, シェルター上尾根道  
 ツツジ道, 伐採地跡, ヒミツの花園など